

今年も無事に トラストトレインの運転が終了



滅多に見られない富士山と
トラストトレインの2大競演



11月25日の運行状況

ボランティア	15名
(初参加1名 会員外0名)	
乗客数	
下り	172名
上り	85名
テレカ売り上げ	59枚

11/11「虹の郷」入口にて

鉄道サークル総会 修善寺 虹の郷にて開催

鉄道サークルの総会が去る11月11日土曜日、日本保存鉄道協会会員でもある静岡県修善寺の虹の郷にて開催されました。総会の決議事項等について、ご報告させていただきます。

開会宣言...長谷川誠会員によっておこなわれた。

議長...サークル事務局長渡辺一男氏の指名により、小城崇史会員が議長をつとめた。

アウトライン...今回の総会の運営を担当した海老原英治会員から2日間のスケジュール、総会のアウトラインの説明があった。

1. 事務局からの報告事項

(渡辺一男会員より)

A. 決算報告(別紙参照)

B. テレホンカード中間報告

(田中光一会員より)

長谷川健夫会員の撮影した写真を元にテレホンカードを作成。なお費用は会員の皆様からいただいた通称『テレカ基金』を元にした。都合300枚作成し、1枚当たり単価は650円となった。財団作成の絵葉書2枚と共に寄付金付き1000円にて車内販売を行い、8、9、10月の運転で約110枚を販売することができた。

C. レーザープリンタの購入について(田中光一会員より)

サークル報『とらすととれいん』発行の為にレーザープリンタを購入することが報告された。目的は、作業の効率

化、時間短縮、コピー代の節約である。

2. トラストトレイン関係の報告について

A. 乗車実績、ボランティア参加人数の報告

(財団事業課松本主任より)

B. 客車補修についての報告

(海老原英治会員より)

昨年、今年の補修内容の説明(サークル報にも報告が都度掲載されていますのでご覧ください)。

来年3月に実施する補修の予定内容についての説明。

1. オハニ36の白熱灯化
2. 座席を含む本格的車内クリーニング
3. その他傷んだ箇所の補修(通常通り)

3. 関西地区の活動報告

(森下義人会員より)

A. 今年の活動報告

B. 来年の予定は1月に行われる定例会にて検討する旨の報告

来年4月に、愛知県蒲郡市のD51を守る会と交流する予定(正式なサークルの行事とするかどうかは更に検討)。関西地区例会の席上では、他の団体との交流も必要ではないのかとの意見が出た。

4. 財団より

(財団米山事業課長より)

トラストの事業内容の説明

トラストトレインも97年に満10年という一つの節目を迎

える。このことを再認識して次のステップへボランティア活動は楽しいもの、自分が喜びを得ることが大切。また財団とボランティアは何でも話し合える関係であってほしい。補足(事業課松本主任より)

スハフ43はつかり色への塗りかえに際してボランティアの協力があつたことが報告された。なお費用については400万円程度かかっており、トラストトレインファンから支出された。

鉄道趣味誌のトラストトレインコーナーの執筆を今年一年会員ボランティアの方をお願いしたところ、一般からの反響があつたことが報告された。

審議事項

A. 事務局長挨拶

(渡辺一男会員より)

各人がボランティアとしての自覚をもって行動をするようにとのお話しがあつた。

B. 会報のありかたについて

(田中光一会員より)

原稿の作成方法について説明

現在トラストトレインの運行後1週間から10日を目標に発行。原稿の集まりが悪く、各号にて頁数にばらつきがある現状を説明。読むだけではなく、会報そのものに参加して欲しい旨のアピールがあつた。

C. ボランティアの服装について(海老原英治会員より)

現在服装については特に定めていない。但し、お客様に不快感を与えないように襟付きの服（夏場はポロシャツなど）がよいのではないかと考えていない。

- ・ネクタイ/ブレザーの着用は考えていない。
- ・お客様や、現場の方と識別できるスタイルを目指したい。
- ・ボランティアとして参加していることを考える。
- ・添乗用としてワッペンを作成する。
- ・服装については海老原会員が中心となって来年の運転日までに検討する。

D. 配布用パンフレットの作成について

（海老原英治会員より）

現状のパンフレットではお粗末なのでサークルでカラーパンフレットを造ってはどうか。見栄えのするものを作れば乗車記念にもなるし、他の所でPRにも使うことが出来る。

米山事業課長より、現在のパンフレットは間に合わせでつくったものであり、本来財団が用意すべきものとの発言があった。

サークルとしてパンフレットを作成する必要があるのかどうか議論されたが話し合いの結果、パンフレットのレイアウト、中身についてサークルにて検討し、財団に具申、財団と協議してパンフレットの作成を進めることで決着した。なおサークル側の担当は海老原会員、内容についてはサークルの定例会にて発表し、

サークル報にてお知らせすることで合意した。

E. 会費

従来通り、2000円にて据え置くことに決定した。

F. サークルのポジショニングについて

財団とボランティアの立場の違いを明確にする。

G. 名称についての提案

（渡辺一男会員より）

名称を旧称の鉄道文化財保存活用サークルにしてはどうか。

・ただの鉄道マニアの集団ではない、精神的自覚を持つために。

・自分達が何をやっているのか再認識するために。

新しい名称を今後話し合う（例：鉄道文化財保存活用サークル、鉄道産業遺産保存活用サークル）

通称は従来通り鉄道サークルとする。

H. 幹事制度の廃止

幹事制度を廃止して、担当制とすることを決議した。

担当者の交代

事務局

（旧）渡辺一男

（新）海老原英治

会報

（旧）渡辺一男

（新）田中光一 小城崇史

会計

（旧）橘 秀幸

（新）伊藤栄一

会計監査（新設）

橘 秀幸

トラストトレイン運転関係財団（変更無し）

トラストトレイン補修関係海老原英治（再任）

森下義人（再任）

ブレインアドバイザー（新設）河東東雄 田中彰一

なおサークル事務局は海老原会員宅とする。

よって、サークル主催のイベントに関する連絡調整は海老原会員宅に、財団主催のイベントに関する連絡は財団に連絡することになった。

（平成8年4月より）

なおトラストトレインの運転、添乗者の選出は財団が主体となり、現場でのボランティア活動はサークルの代表者がとりまとめを確認した。

I. サークル定例会

関東地区 平成8年4月より、北とぴあ（JR王子駅前）にて月1回開催。

関西地区 従来通り、交通科学博物館にて開催。

お知らせ

昨年12月に実施しました品川の旧型客車の解体部品の取得作業は、本年10月2日のトラストトレインの運転日に再度輸送を行い、大井川鉄道構内、オハニ36車内、ヨ5000車内に分散保管を行うことで終了しました。

今後共トラストトレインの保守、修理等に有意義に活用していきます。



翌日の交流会では、機関区の小川さんにご案内、ご説明をしていただいた。

我々が訪ねた時は、丁度出庫準備に忙しい時にもかかわらず、色々とお話を聞く事ができました。

現在 SL は、コンブリアとノーザンロックを交互に使用しており、アーネスは牽引力が小さい(客車3両まで)為、現在は殆ど使用していないとの事です。

コンブリアは虹の郷オリジナルのSLで、デザインは黒岩保美氏のアドバイス。外台枠として第2動輪が左右30mmまで動き、急カーブに対応していて、R30まで通過可能。

園内のカーブはR50が一番きつく、フランジは2年程度で減ってしまうという事でした。

又、イギリスのロムニー鉄道ではSLを作っておらず、レーベングラス鉄道で作ってもらったが、発注から完成まで2年を要したそうです。

英国ロムニー鉄道では時速40km程度で走行するが、虹の郷では10~15km程度の為、通風関係は日本に来てから使用条件に合う様に改造しているというお話でした。

使用している石炭はウエールズ産の上質な物で、90%が固定炭素で燃焼カロリーは1000kcal/kgというものです。

燃焼効率が良い為、くべ方も日本産の物に比べラフで、火室の真ん中でドンと燃やし、火加減は空気吸入量で調整す

れば良く、石炭ガラも少ない、大変扱いやすい石炭という事である。

車輻はフランジの片減りとフレームの曲がりグセがつくのを防ぐために、半年に一回、走行方向を変えて調整している。(10月~4月末・4月末~9月で運行方向を変えているとの事。)

最後にカマの保守についてご苦労は、と伺ったが、特に今のところ苦労はしておらず調子は上々という事でした。



思い出の写真館 29

新潟交通の貨物列車

高崎 角田 聡



一九七〇年代、貨物列車は国鉄から地方私鉄に至るまで各地で運転され、決して珍しい存在ではなかった。

新潟平野を信濃川に沿って走る新潟交通も例外ではなく、電気機関車を所有していなかったのか、車体に「荷物」「51」と記された電車が、数輛の貨車を引いて貨物営業をしていたようだ。

当時小学生だった自分は、「51」という形式の荷物電車が貨物の先頭に立つ私鉄：という思い出が強烈だ。この写真を撮った東関屋駅には基地もあり、電車に混じってラッセル車も停まっていた。

近年新潟交通は大規模な路線縮小が行われ、東関屋駅はリニユールされるとともに、構内の大半はバスプールとなってしまった。荷物電車の消息も知らないで、メンパーの方で御存知の方がおられましたなら、御教示願えれば幸いです。

写真2点は、一九七四年十一月撮影



見学会報告 海老原 英治

平成7年9月23日(土)関東地区ではひさびさの見学会が行われた。今回は“神奈川のトワイライトゾーンと今なお現役を訪ねて”と題して(某誌のお題借用です)、東神奈川のノースドック付近の散策と鶴見線のクモハ12の見学である。

午後1時JR東神奈川駅集合。参加者は9名とやや寂しい感もあったが、当日は皆さんの日頃の行いが良いせいか晴天に恵まれ、まずはノースドックの見学に一同赴く。目的の線路は米軍の燃料補給廠に向かう線で、以前は周囲にも引き込み線等があり、仲々良い雰囲気であったが、区画整理が進み、景色は少々変化している。またこの線の途中に運河を渡る鉄橋があるが、この橋は昔道路併用橋であったもの。

徒歩約10分で鉄橋に到着。

しかし橋から先は米軍の施設内で、『許可無き者の立ち入りを禁ず』との表示があり、橋を渡りきりたい気持ちを抑え、ほぼ“日本領土内”と思われる場所から橋を見学する。その後、運河に沿って建つ倉庫群、放置されている奥多摩のホキ等を見てトワイライト編はひとまず終了し、第二部の鶴見線へ。

鶴見線営業所(旧弁天橋電車区)では、所長より営業所の概要について説明を頂き(思いがけないことで、却って恐縮してしまう)、クモハ12の留置場所に移動する。参加者皆さん撮影に勤しみ、また色々とお話を伺い、十分に楽しんで営業所を辞した。

次は、武蔵白石駅でクモハ12の回送列車の撮影。思い思いのアングルで列車を狙う。待つこと暫し、吊り掛けモーターの音を唸らせ、電車は

ホームに到着。エンド交換し一旦上り本線に引き上げ、再度エンド交換し、大川支線のホームに進入する。この上り線のクモハ12と、隣にいたDE10がたまたま同時発車。2両併走しているシーンを撮れた人は果たして何人いたのだろうか?

入線したクモハ12で、今回の最後のメニュー、大川支線一往復の小旅行。ずらりと並ぶ白熱灯、スタンションポール、暖かみのある木の床、懐かしい雰囲気の中で、旧国はやはりいいネーと皆さんしみじみとした気持ちになっていた。

そんな雰囲気の中、定刻に電車は到着し、武蔵白石駅にて解散、今回の見学会はお開きとなった。

最後に、今回の見学会に色々とお骨折り頂いたサークルの熊谷さん、またJR東日本鶴見線営業所の皆さん、どうもありがとうございました。

編集後記

・前号の表紙を見て何かヘンだと思った方はいらっしゃいましたでしょうか。実は、コンピュータ処理で駅構内の架線と架線柱、出発信号機などを消してしまったのでした。(一応、撮影者の許諾は得ました)
・今号から会報の印刷方法を、従来の版下を作ってそれをコピーする方法から、ダイレクトにマッキントッシュのデー

タをレーザープリンタから出力する方法に変えました。

今までは1回コピー機を通すために、どうしても写真などの解像度が落ちてしまいましたが、この方法ですとデジタルデータのまま出力できますので、今までと比べてかなり品質の良い写真をお届けできると思います。

また、今回のダイレクト出力に伴い、紙のサイズを今ま

でのB4二つ折りのB5からB5サイズのままの形態に改めさせていただきました。理由は、レーザープリンタの物理的制約のためです。

さらに、ファイリングの便利さを考えルーズリーフ用紙を採用してみました。

・またしても会報の発行が遅れてしまいました(私が風邪でダウンのため)。もし年内に着かなかったらゴメンナサイ。